

# 改訂の序

初版発行から10年の月日を経て、改訂版をこうして皆様の手元にお届けできることに感謝の気持ちと満足感でいっぱいです。前版の読者の皆様、この書籍に関わられたすべての人に感謝申し上げます。

さて、本書は、改訂版とはいえ、単に古い記載を修整しただけのものではありません。掲載症例は、この10年の疾患概念の変遷を反映したものにすべくすべて選び直し、結果として80例になりました。また、各章の総論「0」も4頁に増やし、各病変の理解がより進むように工夫しました。さらに、佐野直樹を編著者として加え消化管の項の充実を図りました。

では、この本を新たな企画の本としてではなく改訂版として出すことにしたのはなぜだったのでしょうか。それは、「消化器病理の見かたのコツ」を、臨床家の先生方に少しでもわかりやすく伝えたいという著者・編集者の変わらぬ思いがあったこと、そして、本書のスタイルが、それを書籍の形で実現するための企画として秀逸だと考えたからです。読者は簡単な症例概要と内視鏡像や放射線画像などから入ることができ、左頁の病理写真は大きめにして示し、病理に関する疑問などにも頷きながら右頁に進むことができます。右頁（病理医のアプローチ）では、病理所見を矢印なども付けてなるべくわかりやすく説明し、キモの一言で締めるといったスタイルです。いかがでしょうか？

本書の作製過程では、今回も山本博徳教授率いる自治医科大学消化器内科の各領域の精鋭、上部消化管 三浦義正准教授、下部消化管 林芳和准教授、肝臓 森本直樹教授、胆膵 菅野敦准教授とのキャッチボールを行いました。自治医科大学では各診療科間の壁が押しなべて低く、特に病理診断部門と消化器内科は、診療から研究まで日頃からさまざまに協力して活動を行っています。本書もそういう関係性を基盤にしてこそ生まれ育つことができたといえるでしょう。感謝です！

さて、そうして原稿が揃ったところで、次は羊土社編集部による“本当の”編集作業です。雑然として“味気のない”原稿の束が、読者に歓迎される好書になるよう、ここで生気が吹き込まれます。今回は、「消化器Book」連載からの長いお付き合いとなった鈴木美奈子氏の総指揮の下に、杉田真以子氏が中心となりまさに本書を生々としたものにしてくださいました。感謝です！！

最後になりますが、本書を手にとられた一人でも多くの方が、本書で消化器病理の「見かたのコツ」をつかんでいただければと強く願っております。

2023年2月

編著者を代表して  
福嶋敬宜